

じんましん(蕁麻疹)

じんましんとは、かゆみを伴う膨疹〔ぼうしん〕(虫さされの様に見えたり、真っ赤だったり、プツプツが出たりと色々な見え方をします)が出現と消退を繰り返す疾患です。個々の皮膚症状・かゆみは数時間以内に消退することが多いですが、出たり引いたりを繰り返します。

1か月以内で症状が消失するものを急性蕁麻疹、1か月以上続くものを慢性蕁麻疹と分類します。

人がイラクサ(蕁麻〔じんま])の葉に触れると同様の皮膚症状が出現するため、この名前がついたと言われています。

原因はアレルギー性(食事・薬剤・ラテックスなど)、コリン性、物理性(機械性・寒冷・温熱・日光など)などに分類され、ヒスタミンという物質が血管及び神経に働くことで症状が現れます。

食事が原因ではないか?と考える方が多いのですが、実際には原因を特定できない事が多く、原因不明のまま長い経過をたどる事も少なくありません。疑わしい食品や物質がある場合は血液検査をすることもあります。

また、原因・悪化因子が明らかな場合は、それらを取り除く、又は避けるようにすることが一番です。ヒスタミンの作用を抑えるために、抗ヒスタミン薬、又は抗ヒスタミン作用のある抗アレルギー薬が飲み薬として用いられます。

医療機関を受診する際には皮診が消失している場合があるので、いつ、どんな時に、どのような症状がでるのか、どのくらいで症状が治まるのかをきちんと医師に伝えるとよいでしょう。